

## 三段峡ホテル

三段峡ホテルは人里離れた静閑な場所にあり、三段峡峡谷を眼下に望む伝統的な昭和風の旅館です。木造建築の昔ながらの窓からは、峡谷の眺めが広がっています。その静けさを破るのは心の落ち着く川の音だけです。西向きの部屋や食事用広間の幅広の窓からは、峡谷のモミの木立や真っ赤な橋のあたりを漂う朝霧を見ることができます。

三段峡ホテルは数十年来の家庭的でレトロなインテリアを保ちつつ、改修によって最新の設備を備えています。宿泊客は親密な受付エリアで歓迎を受け、三段峡の歴史に関する情報を得たり、熊南峰（1876-1943）氏が撮影した写真を楽しむことができます。ホテルは3階建てで、上階の客室に加え、川に見える温泉、食事用広間、図書館があります。畳敷きの食事用広間では、宿泊客に朝食と夕食が出されます。地産品や鮎などの地元の名産品のほか、ホテルのオーナーが近くの山で摘んできた旬の山菜もふるまわれます。食べものはぜいたくなものではありません。料理はむしろ、地元食材の良さを最大限に活かすよう作られています。

三段峡ホテルの歴史は、高下常市が1929年に建てた「峡南館」という旅館から始まりまし  
た。1932年には広島富豪、羽田氏が「峡南館」を吸収合併し「羽田別荘」という名の別荘  
に転換し、高下が総支配人となりました。羽田別荘は第二次世界大戦中、陸軍の療養所として  
使用され、戦後には進駐軍に接收されました。1945年8月の広島への原爆投下により、羽田  
氏の家は破壊され、羽田別荘の木材が家の再建に使われました。

現在の三段峡ホテルは1956年に羽田別荘の跡地に建設されました。高下はこの建物を「三段  
峡ホテル」と名付けることにしました。その名前にモダンな響きがあったためです。実際、広  
島県ではこのホテルが外来語の「ホテル」を最初に名前に採用した建物でした。